

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】 平成 23 年度

事業所番号	2775600675		
法人名	有限会社五和会		
事業所名	グループホーム平和苑		
所在地	大阪府泉南市樽井1丁目6番1号		
自己評価作成日	平成 23年 11月 25日	評価結果市町村受理日	平成 24年 1月 13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・医療連携が充実しているため、早期発見・受診等早く対応できている。又、医師・看護師との協力で看取りについても取り組む準備ができ、実際に初めての看取り対象者がいらっしやる。</p> <p>・レクリエーションが充実し、個別対応から集団レクまで日々様々な職員の取り組みがある。また、家族参加の行事も恒例になり、遠足・平和苑祭り・夏祭り・家族会・運動会と家族の協力が素晴らしく、ありがたい。家族の協力で地域の方々と交流の為布草履教室も月2回も継続して開催できている。</p> <p>・全職員がケアプランを把握できるよう、ケアチェック表を作成し、職員自身がチェックし日々プランの実践ができるようにしている。</p>
---

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775600675&amp;SCD=320&amp;PCD=27">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2775600675&amp;SCD=320&amp;PCD=27</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 23年 12月 17日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>隣接する医療法人が同系列で運営するグループホームです。1つのスタッフルームから、2ユニットのどちらへも行けるようになっており、職員全員が18名の利用者を細かく把握できるシステムになっています。家族との関係作りのために積極的な取り組みが実施されており、平和苑たよりの内容の充実・個別報告書・家族を招く機会づくり等、工夫が見られます。看護師による毎日のバイタルチェックをはじめ、母体病院の医師と看護師による協力体制は、利用者・家族・職員の安心に繋がっています。管理者と職員、また職員同士のチームワークの良さは、グループホーム全体の温かい雰囲気を作っています。月2回の布草履教室は輪が広がり、地域の方の参加も増えてきました。管理者や職員が利用者のことを、誇らしく嬉しそうな表情で語る姿に、毎日の温かいケアがうかがえるグループホームです。</p>
--

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を職員全員で把握し、行事等で地域への呼びかけや交流などできるよう取り組んでいる。平和苑祭りでは地域の方と食事やゲームを一緒に楽しんでいただいております。事業所のことを理解してもらっている	「地域の中で、普通の当たり前の生活を送り、その人らしく豊かに、楽しく過ごし、ともに支えあい、寄り添う暮らしを支援します」を理念として掲げ、明示しています。職員は、理念を念頭に置き、毎日のケアに取り組んでいます。	今後は、管理者・職員全員の声を重要視し、皆の思いを言語化、理念の再構築を行う予定です。更なるサービスの質の向上・ケアの統一につながる理念の構築が期待されます。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣組へ参加し、回覧板や配布物など地域の方の出入りがある。個人の地域への外出支援や、布草履教室開催で地域住民との交流を毎月2回開催しさらには花火大会や避難訓練など地域住民の参加を呼びかけ参加していただいている。	布草履教室を毎月2回開催し、情報提供を行うことで、地域との輪が広がっています。参加者は、利用者、一般の方、他グループホーム利用者です。ホーム開設2年目から、花火大会を開催しています。開催当初から参加していた幼児が中学生になり、ボランティアとして行事に参加する事例があり、行事を通じて地域とのつながりを築く大切さを職員は学んでいます。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	泉南市地域密着型事業所交流会を毎月開催し、そこから初めて泉南市広報に、交流会独自の見開き2ページの紙面をもらい認知症について、認知症の当事者や家族の思いを掲載していくことになり、各事業所は実践例などを常に話し合い、地域の方へ発信できる準備をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマは違うが、話し合っていたご意見は必ず参考にし、実践に反映している。また継続している問題点などは必ず報告している。今年は家族会についての議論でたくさんの意見をいただき大いに参考になった。	運営推進会議は、事業所側が報告をする場だけではなく、自分たちが困っていること、悩みを打ち明ける等の場合としても活用し、サービスの向上に活かしています。「毎週開催している研修の際、見守りが不安」との職員の声に対して、家族からの申し出があり、研修の間は家族が見守りボランティアとして、現在も訪問しています。また、議題によっては消防署員の参加を得ており、施設での火災について話し合う際には、他事業所にも呼びかけて会議に参加してもらった事例があります。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただいている。毎月の平和苑だよりで事業所の様子は知っていただいている。今年は市職員の研修で、2日にわけ現場体験された。何事にもすぐに相談できている。	今年度、市職員の現場体験を2日間受け入れています。お互いが歩み寄る良い機会とし、情報提供・情報共有の認識を図っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p><b>○身体拘束をしないケアの実践</b></p> <p>代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束に関する研修を事業所内で実施し、職員の共有認識を図っている。玄関も開放する時は職員の声かけ、見守りを強化している。早朝の自由な散歩を希望される方には、その時間帯の玄関開放を実施している。</p>	<p>身体拘束について、マニュアルの周知、職員アンケート、研修を通じて共有認識を図り、職員一人ひとりが振り返えられるよう1週間の取り組みを行い、評価・反省をしています。玄関は日中開錠しており、2階にある居住フロアへ行くエレベーターは自由に乗り降りできます。各ユニットに繋がる入口ドアは、ある一定時間開放しており、自由に各ユニットへ行き来することができます。開放する場合は、職員の声かけ、見守りの強化に努めています。</p>	
7		<p><b>○虐待の防止の徹底</b></p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待についての研修をし、各自が振り返られるよう1週間の取り組みをし、評価反省している。</p>		
8		<p><b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b></p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>外部研修に参加し、全員で周知できるように資料は閲覧している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明で十分に説明し、理解していただいている。改定の際には、重要事項変更同意書を作成し、十分に説明し理解・納得をしていただいている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	半年毎に担当者会議を開き、ご家族や本人から思いや意見を伺っている。また常時面会時にも伺うよう心がけ、意見は全職員に知らせ、話し合っている。運営推進会議でご家族も意見を言っておられ、苦情については運営推進会議で報告し、全家族に報告している	2階エレベーター前に意見箱を設置しています。「事前に行事開催予定を教えて欲しい」と家族の要望を受けて、会議で話し合い、反映した事例があります。面会時や担当者会議、運営推進会議では、必ず声をかけ、意見等を聴くかわりに留意しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎週ミニカンファレンスという会議で職員から問題提起してもらい、そこでの検討事項は皆で1週間取り組み再検討している。自由に意見が出せるよう「気付き・発見の伝言板」というメモ形式で、どんな些細な気付きでも書き掲示するようにし、情報共有している。	職員は、「気付き・発見の伝言板」を活用し、情報共有のため掲示しています。その内容を業務改善会議やミニカンファレンスの検討事項として話し合っています。年1回の個人面談は、意見や提案が言える場でもあり、反映されています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p><b>○就業環境の整備</b>                      代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>年1回の個人面談で1年の反省「頑張ったこと・反省・管理者に言いたいこと」等アンケート形式で記入してもらい、詳しく話し、さらには「来年の目標・それを達成する為には？」と課題を明確にし、アドバイスをしている。業務内容での改善すべきことがあれば、会議を随時設けている。職員の考えを愚痴と捉えず問題提起とし、皆で取り組んでいる。</p>		
13		<p><b>○職員を育てる取り組み</b>                      代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修には随時参加してもらい、伝達講習もしている。アンケートを取り不安に思うこと取り組んでみたいことを聞き、それぞれに対応できるよう研修を企画して、不安無くケアに取り組み、知識技術の向上にも意欲的に取り組めるよう努めている。</p>		
14		<p><b>○同業者との交流を通じた向上</b>                      代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>泉南市地域密着型事業所交流会でいつでも職員の交換研修を受け入れできるシステムになっている。管理者・計画作成担当者は毎月事業所交流会で情報交換や連携を図っている。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の思いを傾聴し、不安ならば気軽に見学をしてもらうことが可能でまた体験利用のシステムを整備している。時に遊びに来てもらうことを繰り返す等、本人との関係性を築くよう努め、安定的に利用に移行できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	気軽に見学をしてもらい家族の不安な思い等傾聴している。体験利用のシステムを整備しており、時に遊びに来てもらうことを繰り返す等、安定的に利用に移行できるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時の本人・家族等の実情や要望を元に、何が必要か見極め、事業所としてできる限りの対応に努めている。必要に応じて他のサービスの利用を薦めたりもしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者と喜怒哀楽を共にすることについての重要性を理解し、利用者と共に感じられるよう日頃から努めている。食事作りや洗濯干しなどの家事の場面では能力を発揮していただき、共に支えあう関係作りをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	隔月に個別報告書にて、また来苑時に近況報告をし、家族は把握してくれていると思う。年2回の担当者会議にはできるだけ家族に参加してもらい、思いを聞き出すようにしている。行事にも家族参加を呼びかけ楽しみを共感をし、事故については共に対策を検討してもらっている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	墓参りの支援を継続している。また慣れ親しんだ近所の美容室や買物など継続して通える支援をしている。	一人ひとりの生活習慣を職員は把握し、そして尊重しています。馴染みの美容室や買い物、お墓参りの支援継続等、利用者と馴染みの人や場所との関係性を大切にし、ケアに取り組んでいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共に支えあって暮らす大切さを職員は十分に理解している。利用者の個性や能力を把握し、利用者同士の協働の場面（調理・洗濯等）を多く支援している。利用者同士の支えあうほほえましい場面は共に喜び認め支援している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了のほとんどが入院なので、お見舞いに伺い、今までと同様に利用者には声掛け励まし、ご家族にはこれまでの本人の生活状況や思い出、ケアの工夫等の情報は伝え、精神的にも支援の継続はしてきた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で声をかけ言葉を引き出し、表情などから真意を推し測り把握に努めている。意思疎通が困難な方にはご家族から伺っている。家族会議を開き話し合ったこともある。	職員は、毎日の利用者とのかかわりの中で、思いや意向の把握を心がけ、利用者の言葉や表情等から把握した事柄を「なんでも情報」等に記録し、職員全員で共有しています。困難な場合は、家族から話を聞く等し、思いや意向の把握に努めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全職員が半年毎に「なんでも情報」として、お一人ずつの生活歴やお好きな物などの情報を集め記録している。面会時に家族からもなじみの関係作りに努め情報を提供していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別援助計画書にてお一人ずつの一日の過ごし方を把握し、心身状況に合わせて随時見直している。さらに「なんでも情報」にはできないこと等の把握・新たな発見があれば、追加記入し全職員が把握できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>ご本人やご家族には日頃のかかわりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。なんでも情報の見直しにより全職員でアセスメントをし、半年後との担当者会議では本人・家族と共に意見交換をしている。毎週ミニカンファレンスでは困難事例等話し合い取り組みの継続後介護計画に反映している。</p>	<p>利用者や家族には、毎日のケアや担当者会議等で、思いや意向、意見等を聞き、介護計画に反映しています。ケアマネジャーが作成する介護計画案を、職員は、利用者主体の暮らしを念頭に置いた上で確認しています。利用者の強い意向（例えば、お金を持って、自由に外出や散歩をしたい等）をホーム内で検討し、介護計画を立案した上で、家族の了承を得て、支援が決定した事例があります。介護計画の内容を、職員全員が見てわかるよう簡素化した「ケアチェック表」は、関わった担当者が毎日の実施状況を「正」の字で記録しています。簡素化した成果として、利用者に関わる時間を多く作ることができました。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日ケアチェック表にてプランの実施状況を把握でき、介護計画見直しに生かしている。個別記録にも状況は記録し、どんな些細な気づきでも皆が言いやすいように「気づきと発見の伝言板」というメモ形式にて記入し、ヘルパー室に掲載、情報共有している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	通院支援・リハビリ通院支援・個別外出支援・入退居時の荷物運搬支援など本人や家族の状況に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	馴染みの美容院・スーパーを利用し、泉南市介護者家族の会から催しの案内が来ると楽しみに出かけ、消防署との合同避難訓練・困難事例の地域包括支援センターへの相談等、地域資源と協働している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所との連携医療機関や今までのかかりつけ医や希望の病院へ受診していただいている。基本家族同行の受診だが、必要に応じ、状況報告の手紙を添えたり、受診に付き添いもしている。また連携医療機関からは訪問診察に来てもらっている。	入居以前からかかりつけの医療機関に受診している利用者もいます。看護師による毎日のバイタルチェックをはじめとする母体病院の医師・看護師の協力体制は、利用者・家族・職員の安心に繋がっています。利用者全員が毎週往診を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携医療機関の看護師とは24時間連絡を取れる状況にある。毎朝看護師と連絡を取り、利用者の体調の報告をし、受診が必要と判断されればすぐに対応している。看護師により服薬管理もしている。看取りについても常時相談できている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院の際病院関係者に情報提供し、ケアについて話し合っている。また担当医には短期間の治療で早期退院できるように伝え、家族・病院関係者との話し合いの場を設けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意向を踏まえ、連携医療機関の医師・看護師と職員が連携をとり、安心して納得した最期を迎えられるよう、随時意志を確認しながら取り組んでいる。職員にとっても不安や過度な負担がないよう、定期的に研修会にて知識や技術向上に努め、またアンケート調査でさらに問題点や不安なことに対し、話し合い解決できるよう、事業所全職員で取り組んでいる。ご家族にも、事業所の取り組みは公開し、了承を得ている。	現在、看取りケアを実施している利用者がいます。家族会や運営推進会議で看取りについて話し合う機会を作っています。看取りケアについての職員の不安をアンケート調査し、看取り会議を開きました。看護師長による研修や会議技術研修を実施し、看取りに対しての不安の軽減や質の高いケアを目指しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の身体状態の急変や事故発生時にも慌てず適切な行動が取れるよう、研修会で学び、応急手当について訓練も実施している。連携医療機関への連絡、救急車の手配などの模擬訓練も実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し年2回利用者と共に避難訓練を実施している。内1回は消防署との合同避難訓練である。水消火器での消火訓練も実施。近所の方にも呼びかけ、消防署との合同訓練時には参加していただいている。災害時に備え食料・水・ポータブルトイレを準備している。	災害発生時マニュアルを作成し、年2回の避難訓練を実施しています。消防署との合同訓練時には近所にも呼びかけ、参加してもらいました。非常災害時用の食料・水も準備しています。震災をきっかけに、災害時用コンロも準備しました。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩であることの敬意を払い、常に言葉かけは丁寧にし、プライドを損ねないよう全職員が気をつけている。毎年ミニカンファレンスで言葉遣いについて話し合い実践している。排泄についても研修し誘導や援助についても配慮あるかわりをしている。	日々のケアの中での接遇で、「恥をかかせない」「自分だったらどうしてほしいか」を振り返りながらケアを行うように、管理者は職員に伝えています。不適切なケアについてのアンケートもとり、自己点検しています。職員は利用者の居室に入る際、ドアをノックして返事を待ってから入室する等、プライバシーを尊重した支援を心がけています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	お好きな飲み物を伺ったり、個別外出先やお誕生日の食べたい献立など好みを伺い、希望を聞き出している。自己決定できるような声かけに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調が悪い時、眠い時間帯、お好きな連続ドラマなど、その方に合わせた過ごし方をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣服選びもできるだけ自己決定できるように支援している。毛染めを希望される方には馴染みの美容院へお連れしている。アクセサリーがお好きな方は個別外出で職員と一緒に選び購入されている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	畑と一緒に収穫した豆や芋を調理している。芋のつるを佃煮にするなどは利用者から教わった。献立は職員が決めるが、誕生日だけは食べたいものを伺っている。買ってきた食材に日付貼りをしていただき、調理・盛り付け・片付けは職員と利用者と一緒にし、食事楽しく会話しながら一緒に食べている。お酒が好きな方には提供している。	3食、グループホームで作っています。献立は職員が立て、調理・盛り付け・後片付けは職員と利用者と一緒にしています。材料については、商店へ毎日事前にFAXを送り、利用者と一緒に買いにいきます。利用者の重度化で介助が必要な方も多くなりましたが、職員も一緒に楽しんで食事しています。梅酒・ビール・イモ焼酎等、お酒が好きな方は飲んでいきます。評価訪問時、誕生日を迎えた利用者は肉が好きなため、献立に「ハンバーグ」を取り入れていました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をして いる	毎年水分摂取量を1週間調査し、お一 人ずつの水分量を把握している。体重 測定を毎月実施し、医師からの指示あ る方には食事量・水分量の調節やとろ み剤を使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアは実施している。自分 でできる方には声掛けのみ。できるだ けご自分でやっていただき、不十分な 場合のみ支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、 一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を 活かして、トイレでの排泄や排泄の自立 にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、利用者のサインを見 逃さないようにし、身体機能に応じて支 援している。日中は必ずトイレでの排 泄を支援し、オムツ類も身体機能に合 わせている。排泄チェック表を使用し、 尿意・便意の無い方には時間を見計ら って誘導しトイレで排泄できるよう支援 している。	日中はトイレでの排泄を支援していま す。夜間はポータブルトイレを使用する 利用者もいますが、居室にトイレがあ ることで、排泄の自立支援が効果的に なっています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲 食物の工夫や運動への働きかけ等、 個々に応じた予防に取り組んでいる	寒天でお茶ゼリーを作り、水分も繊維 質も摂取できるよう支援し、薬に頼らず 自然排便を促す工夫をしている。どうし ても便秘気味な方には排便周期を把 握し、液体下剤にて服用量を調節し、 排便コントロールしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日を決めてしまっている。体調に合わせて2日に1回、又は3日に1回。入浴時間は午後3時から5時まで。その中で嫌な人と一緒にならない配慮・熱い湯が好きな方には1番にという配慮はしている。機械浴槽もあり、身体能力に合わせて、安全にゆったり入浴はしていただいている。	平均週3回入浴してもらっています。入浴時間は午後3時から5時までです。機械浴の導入で重度の利用者も、安心してゆっくり入浴してもらうことができます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	よく眠れずしんどそうな時は、午前か午後かどちらか臥床していただくよう配慮している。なかなか寝付けない方には、ホットドリンク等飲みながらじっくり傾聴し安心して入眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が服薬調べをし、一人ひとりが使用している薬について理解している。またいつでも調べられるよう服薬ファイルをヘルパー室に常備している。薬が変わった時など状態の変化等があったら医師にはすぐ報告している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力に応じて楽しみごとの提供はしている。書道・編み物・書写・絵画・個別外出での外食や買物。毎晩の晩酌（焼酎・ビール・梅酒）		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望があればできるだけ添うようにしている。馴染みの美容院や個別外出で墓参り・喫茶店やスーパーでの買い物、回転寿司などに出かけ楽しんでいただいている。行事として花見・遠足や戸外でのお弁当を企画し、ご家族にも一緒に参加していただいている。	日常的には、スーパーでの食材の買い物や散歩に出かけています。個別の外出は本人の意向を聞き、外食・買い物、墓参りなどに出かけます。個別の外出記録は、2カ月に1回、写真入りで家族に送っています。自由に外出・散歩がしたいと強く望まれる利用者に対し、医師をはじめとする関係者で話し合い、家族の同意を得て、一人で散歩やリハビリへ出かけることが実現しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には 1000 円をお渡しして、散歩途中におやつなどをコンビニで購入されている。ほとんどが職員同行しているので、個人のお金であること意識していただき、一緒に支払い等のやりとりをしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	お届け物があつたりしてお礼の電話などには本人にも電話で話してもらっている。年賀状もかける方には直筆していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を飾り、馴染めるよう工夫している。テレビがよくついているが淋しくないよう、またうるさくないよう配慮している。台所ではいつも調理の音・においが楽しめている。トイレは各居室にある為、ゆっくり安心して排泄時間をとれている。空調管理には常に気を配っている。	リビング兼ダイニングルームは広く開放感があり、食卓以外にソファのコーナーがあります。壁は季節感あふれる飾りつけになっています。2階に向かう階段には利用者の作品の水彩画や書、布草履などが飾られています。台所からは一般家庭のように、調理の音や匂いが漂ってきます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファでゆったりくつろぎお話していただく空間がある。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅での馴染みの品々を持ち込んでいただいている（家族の写真・神棚・信仰している宗教のもの・自分のポータブルトイレ・手鏡や化粧品セット・趣味の品など）	居室の模様づくりは、「本人が決める」ことを大切にしています。好きな歌手の写真やカレンダーを飾っている人、趣味の絵画の作品を飾っている人等、個性溢れる居室です。家族の協力も得ながら、本人の使い慣れた物や大切な物を持ち込んでいます。居室の入り口は季節毎に手作りの表札がかかり、自分で書ける人は自分で名前を書いています。衛生面や安全に配慮した環境作りにも工夫しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	歩行不安定な方には居室に食席の椅子を置き並べ手摺りがわりにしたり、見当識障害での混乱がひどい方には居室ドアに今日の日付やりハビリ・入浴の予定を記入できるボードを置き、混乱を予防できている。歩行意欲の向上のため、廊下の端に歩行訓練チェック表を貼り出し自己にて印つけしていただいている。		